

仙台市青葉区桜ヶ丘4丁目の地盤変状被害

2011年3月14日時点の様子

写真左側が山手の緩やかな斜面上の宅地の地盤変状被害。住民によると1978年宮城県沖地震では被害がなかった。宅地内では液状化の噴砂跡が見られるが、亀裂のあった路面では砂は見られない。表層より深い所で液状化が発生している可能性がある。

高橋良和(京都大学)・後藤浩之(京都大学)・鎌田泰子(神戸大学)の調査による【文責・図面作成:鎌田泰子】



左側より移動し、路面に圧縮亀裂あり



擁壁のブロックが下手にずれ、一部面外に孕む



液状化の跡と見られる噴砂



斜面直角方向の道路亀裂。下手(写真左側)に路面亀裂ならびに移動



Google Earthより航空写真を引用



漏水箇所下手で路面の亀裂陥没。左側に下水管あり。



水道管の漏水



路面全体が滑り、10cm近く移動



↑ 宅地内配管の露出。
→ 通信ケーブルの露出。



↑ 路面の亀裂。水道・下水管があり。ただし地表地盤には液状化の跡が確認できない。
← 宅地擁壁の変状も伴い、門柱も傾斜